

# 地域特性を考慮した生活サービスの在り方に関する一考察 —少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その2)—

準会員○金久絵里<sup>1)</sup> 同 三堂早紀子<sup>1)</sup> 正会員 友清貴和<sup>2)</sup> 同 本間俊雄<sup>3)</sup>

5. 建築計画—2. 地域施設基礎 建築計画  
少子・高齢化 人口減少 生活サービス 人口構成 狭域

## 1. はじめに

前稿(その1)で得た知見をもとに、本稿では実際の地域を想定し、その地域に見合った生活サービスの在り方について考察する。

以下に方法を示す。

①地域の特徴を交通・地域住民組織・人口などの観点から把握する。②前稿で類型化された75項目の生活サービスについて、対象地域での実施状況をつかむ。③①・②を踏まえ、前稿で得た一般的な生活サービスと照らし合わせ、地域に見合った生活サービスの在り方を考える上で必要な視点を見い出す。

## 2. 地域における生活サービスの現状

### 2-1. 対象地域の設定

地域の特性が生活サービスへ及ぼす影響を考察するため、特性の異なる複数の地域を設定する。本稿では中学校校区を基本単位として、郊外に位置する皇徳寺中学校校区<sup>注1</sup>と中心部に位置する甲南中学校校区を対象地域とする(図1)。

### 2-2. 地域の現状把握

#### 2-2-1. 地域の概況

##### (1) 皇徳寺中学校区(以下、皇徳寺)

鹿児島市中心部から西に約6km離れた丘陵地にあるニュータウンである。昭和55年から造成され、市内では比較的新しく、規模の大きいニュータウンであ

る。平成9年に開発は完了し、今後の開発予定はないが、保留人口フレーム制度<sup>注2</sup>を活用した開発は可能である。

##### (2) 甲南中学校区(以下、甲南)

鹿児島市のほぼ中央部に位置する市街地である。地区の中心にはJR鹿児島中央駅があり、陸の玄関口として発展を続けている。周辺部は住宅地が広がる。大学や専門学校、事業所が多く、20歳以上の若者層の入れ替わりが顕著である。近年の傾向として、分譲マンションの建設が進んでいることが挙げられる。

#### 2-2-2. 地域の特徴

**人口構成:**鹿児島市の住民基本台帳の人口データを基に、平成18年9月現在の年齢別人口構成を図2に示す。皇徳寺は10～20歳層の子ども及び、その親に相当する45～55歳層が大部分を占める。甲南は、鹿児島市全体の傾向と一致するが、20～35歳層の人口が最も多くなっていることが分かる。

**土地用途:**皇徳寺は、第1種低層住居専用地域がほとんどを占める。店舗や飲食店を建築可能な区域は限定され、物質的供給拠点が一箇所に集中している。甲南は、多くが第1種住居地域だが、道路沿いや中央町一体は商業地域に指定され、一般住宅と商業施設が複合する地域である。

**地域住民組織:**両地域共に、学校区単位または町内会単位で、校区公民館運営審議会や愛護連絡協議会、老

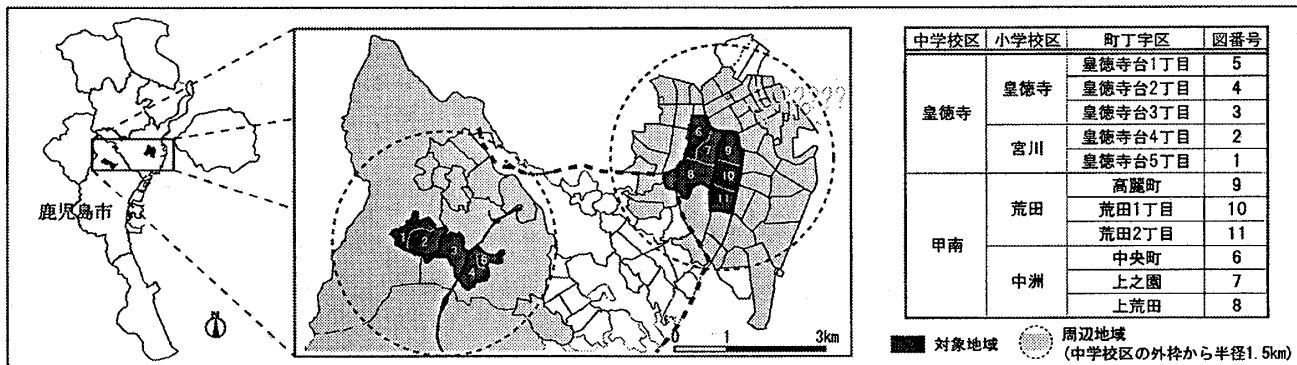


図1. 対象地域

One Consideration about What the Life Service that Considered a Local Characteristic should be.

—A study on Reconstruction of the Life Service Corresponding to Less Children, Aging and Population Reduction Society (Part2)—

KANEHISA Eri, MIDO Sakiko, TOMOKIYO Takakazu, HONMA Toshio

表1. 町内会加入率(H18年)

中学校区	小学校区名	総世帯数 〈世帯〉	加入世帯数 〈世帯〉	加入率 〈%〉
甲南	中洲小学校区	5965	3020	50.6
	荒田小学校区	5743	2600	45.3
皇徳寺	皇徳寺小学校区	2025	1845	91.1
	宮川小学校区	2082	1740	83.6

表3-1. 生活サービスの現状(皇徳寺)

行われているサービス数								
圏域	項目	広がり			合計	%	行く/来るサービス	
		狭域 (42)	中域 (48)	広域 (20)			対象者が行く サービス	提供者が来る サービス
中学校区内	少子化分野(35)	9	2	0	11	31.4	11	0
	高齢化分野(41)	2	2	0	4	9.8	3	1
	人口減少分野(34)	6	2	3	11	32.4	8	3
	合計	17 <40.5%>	6 <12.5%>	3 <15.0%>	26	23.6	22	4
中学校区 周辺内	少子化分野(35)	9(0)	3(1)	0	12	34.3	12(1)	0
	高齢化分野(41)	6(4)	10(8)	1(1)	17	51.2	12(9)	5(4)
	人口減少分野(34)	6(0)	2(0)	3(0)	11	32.4	8(0)	3(0)
	合計	21 <50%>	15 <36.6%>	4 <20.0%>	40	36.4	32	8

〇の中の数値は中学校区内と中学校区周辺との行える生活サービスの差を表す。

表3-2. 生活サービスの現状(甲南)

圏域	項目	行われているサービス数							
		広がり				合計	%	行く/来るサービス	
		狭域 (42)	中域 (48)	広域 (20)	対象者が行くサービス			提供者が来るサービス	
中学校区内	少子化分野(35)	5	4	1	11	31.4	10	0	
	高齢化分野(41)	6	9	1	16	39	9	7	
	人口減少分野(34)	5	5	8	18	52.9	13	5	
	合計	16 (38.1%)	18 (37.5%)	10 (50%)	45	40.9	32	12	
中学校区 周辺内	少子化分野(35)	12(7)	13(9)	2(1)	27	77.1	24(14)	3(3)	
	高齢化分野(41)	9(3)	14(5)	3(2)	26	63.4	14(5)	12(5)	
	人口減少分野(34)	5(0)	5(0)	10(2)	20	58.8	15(2)	5(0)	
	合計	26 (61.9%)	32 (66.7%)	15 (75%)	74	67.3	53	20	

〇の中の数値は中学校区内と中学校区周辺との行える生活サービスの差を表す。

表2. 中学校区内の施設の分類

		施設数	
		甲南 中学校区	皇徳寺 中学校区
学校教育	学校	4	3
	保育施設	3	1
	専門学校	3	0
社会教育	校区公民館	2	2
	地域福祉館	1	1
	自治公民館	4	13
	児童クラブ	2	2
	市の施設	1	0
社会福祉	保育施設	4	4
	高齢者福祉施設	17	0
公園	公園	7	16
商業・金融	SC	2	1
	スーパー	4	1
行政・管理	銀行	7	1
	郵便局	5	1
	市の施設	1	0

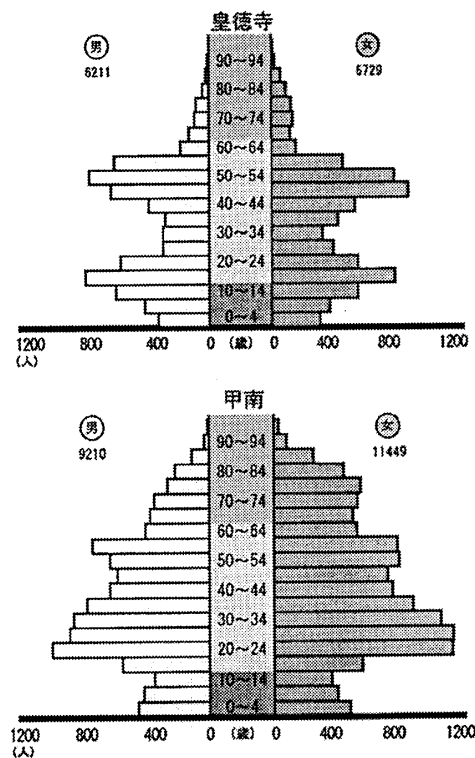


図2. 年齢別人口構成(H18年9月)

人クラブ連合会、校区社会福祉協議会等が存在する。これらは、町内会活動と関わることも多い。表1に町内会加入率を示す。甲南の加入率は鹿児島市の平均加入率65.9%を大きく下回る。一方、皇徳寺は80%以上と比較的高い値である。

交通：皇徳寺の公共の交通手段は1日上下約150本乗り入れる路線バスのみである。地域内を通る自動車専用道路が九州縦貫道と接続しているため、市街地への交通の便は比較的良好である。一方、甲南は、路線バス・JR・路面電車等のターミナル拠点として機能し、非常に利便性が高い。

施設：地域に存在する施設を学校教育、社会教育、医療・保健、社会福祉など6つの分野に分類する(表2)。甲南では、高齢者の社会福祉施設が多く、市や県単位の広域的利用を想定した施設も見られる。皇徳寺においては、自治公民館や公園が甲南と比べ多い。両地域とも共通して、鹿児島市独自の施設である地域福祉館<sup>注3</sup>と校区公民館<sup>注4</sup>が存在する。

## 2-3. 生活サービスの現状把握

### 2-3-1. 生活サービスの実施状況

前稿の類型化で示した生活サービス75項目に対し、実際に行なわれているサービスの数を割合で表し、実

施状況を把握する。結果を表3-1、3-2に提供拠点をプロットした地図を図3に示す。

#### (1) 皇徳寺中学校区

**3分野：**少子化・人口減少分野の行われているサービスは31～32%と同じであるが、高齢化分野はそれらの1/3以下の9.8%と低い。

**広がり：**狭域のサービスが40%行われており、中域・広域とも10%代と低い値を示す。

**行く/来るサービス：**少子化分野に関しては、提供者が来るサービスは存在せず、訪問サービスを行う高齢化分野に関しても2.5%と低い。対象者が自ら受けに行くサービスが大半を占めていることが分かる。

**提供者：**保育園などの民間組織や地域住民によるサービスの提供が大半を占めている。

**拠点：**狭域のサービスは地域福祉館や小学校にある校区公民館に拠点が集中している。

#### (2) 甲南中学校区

**3分野：**少子化・高齢化分野のそれぞれで約31%・約40%、人口減少は52.9%と高い数値となっている。

**広がり：**狭域・中域のサービスが約37%であるのに対し、広域のサービスは50%と高い。

**行く/来るサービス：**少子化分野では、対象者が自ら受けに行くサービスが大半である。高齢化・人口減少分野に関しては、行われているサービスのそれぞれ56%と73%が行くサービスであり、高齢化分野では提供者が来るサービスの普及もやや見られる。

**提供者：**医療法人・社会福祉法人などの民間組織やNPO法人、市町村が提供している。

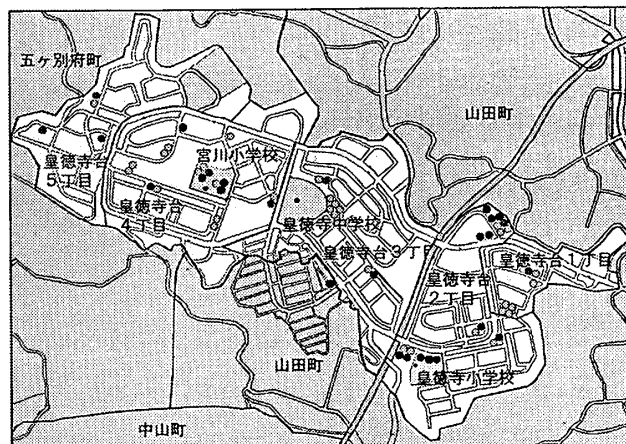
**拠点：**狭域のサービスは校区公民館や児童クラブのある小学校で実施されるものと、その周辺で実施されているものがある。広域のサービスは市の施設(サンエール鹿児島)に拠点が集中している。

#### 2-3-2. 地域における生活サービスの考察

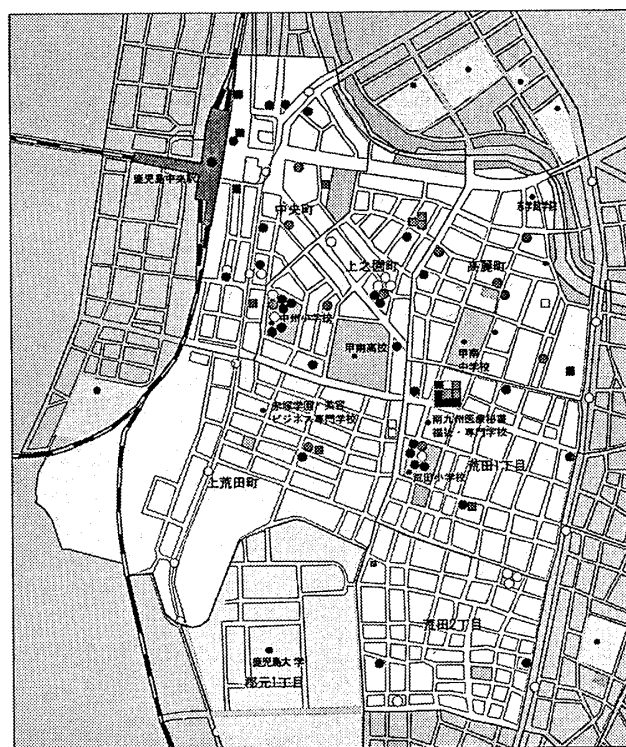
前稿では類型化により、個々のサービスの広がりを一般解として示した。しかし、より効果的なサービスの展開には、地域の実情に応じて広がりを考慮する必要がある。そこで、ここまで対象とした中学校区の外縁から半径1.5km圏内を新たに「中学校区周辺域」と定義する。対象範囲を拡大することで、サービスの実施状況にどれほど変化が見られるか考察する。

#### (1) 皇徳寺中学校区

少子化・人口減少分野は、中学校区周辺域を含めて



〔皇徳寺〕



〔甲南〕

図3. 生活サービスの現状  
(皇徳寺/甲南)

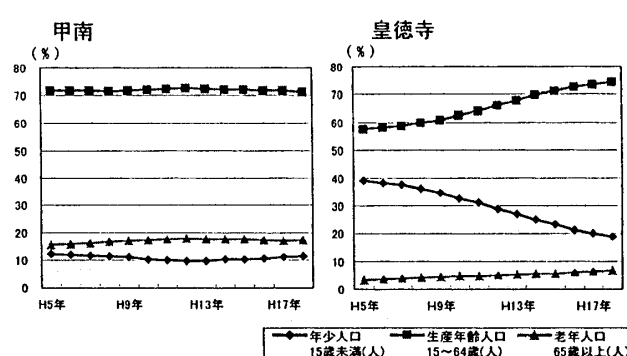


図4. 年齢3区分人口割合の推移

も変わらない。高齢化分野は、中学校区周辺域に高齢者福祉センターがあることから51.2%と高くなる。

## (2) 甲南中学校区

中学校区周辺域を含めると、3分野とも実施率は50%を超え、特に少子化分野で25ポイント上昇する。

### 2-4. 今後の地域の考察

年齢3区分(年少・生産年齢・老年)人口割合の変化(図4)から、今後の人口構成の傾向を予測する。

皇徳寺の年少人口の割合は18.9%(H18年)である。これは市全体で見ると比較的高いが、平成5年と比較すると約半数にまで減少し、急速な少子化が進んでいると言える。また、老年人口の割合は3.3%から約6.7%へ増加し、確実に高齢化が進んでいる。開発が完了し、ニュータウンとしての成長がおおよそ止まったことを考慮すると、今後は他の地域よりも著しい少子高齢化が訪れることが考えられる。一方甲南では、年少人口は平成12年まで減少傾向が見られるが、これ以降現在まで1.8%増加している。市の中心部に近いことから若者の人口が常に保たれ、今後は緩やかに高齢化と少子化が進むものと推測できる。

こうした人口構成の変化に伴い、現在バスと車に依存する皇徳寺は、今後高齢者の行動範囲等への影響が予想される。また甲南においては、地域の問題点として挙げられた町内会の加入率は、さらに低下していくことが考えられる。

## 4. サービス再構築に必要な視点

今回、皇徳寺と甲南におけるサービスの現状を事例に扱った。特性の異なる2地域では、求められるサービスの傾向や提供手法・広がりには大きな違いが認められた。前稿では地方都市を前提に、①提供手法、②提供と受け入れ関係、③サービスの広がりに関する全9項目について、一般的な視点に立ち類型化した。今後の地域に見合ったサービスの展開には、こうした一般的な視点に加え、地域の特性を踏まえた再構築の視点が重要である。前節までの知見をもとに、必要と考える視点を具体的に挙げる。

### (1) 人口構成の把握

サービスの場合、対象地域の人口構成によりサービスのニーズや提供者側の提供能力は大きく異なる。

### (2) 地理的要因の考慮

坂道や土地利用形態によりサービスの提供可能な範

囲や移動に要する負担などが大きく変わるため、地理的要因が与える影響を考慮する必要がある。

### (3) 中心主体の把握

狭域においてきめ細やかなサービスの展開には、地域住民やNP0による自主的な活動が有効である。このような形態の場合、活動の主体となる組織や人材の存在が鍵を握る。そのため、人口構成や施設・事業所・地域住民のつながり等の傾向をつかむことは重要である。

### (4) 隣接地域の特性

2-3-2節で示したように、1つの地域内でサービスがまかなえない場合、隣接する地域との連携や提供エリアの拡大等が必要となる。効率的な展開には、狭域や中域といった複数のスケールでサービスを捉えることが有効と考える。

## 5. 総括と展望

本稿では、前稿での事例収集の結果及び類型化をもとに、サービス展開の在り方について述べてきた。

地域の特性に応じてきめ細やかで質の高いサービスの提供には、既存サービスの人材や拠点の活用のみならず、地域の多様な主体の参加・連携が求められる。そのため、地域内でテーマや課題に応じた活動を行なうソーシャルキャピタル(社会関係資本;SC)の形成と活用が不可欠であると考えられる。

今回は、新聞や各種統計等から得られた情報をもとに考察を行なった。今後は、実地調査によりデータを収集し、類型化した生活サービスの普遍性を高める必要がある。さらに具体的なサービスを事例としたモデル化を行い、検証を試みる。その一例として、地理情報システム(GIS)によるサービス拠点や拠点間ネットワークの構築と適正規模の検証を行う。また、サービス提供に有効な人的ネットワークの形成過程及び効果を明らかにし、SCを活用した新たなサービスの枠組み構築につなげていきたい。

#### 【注記】

注1 厳密には、皇徳寺中学区は皇徳寺台1～5丁目に加え、五ヶ別府町・山田町・中山町も含まれるが、本研究では、ニュータウンの特徴に注目するため、3町丁字は考慮しない。

注2 保留人口フレーム制度：市街地整備の見通しが明らかになった時点で市街化区域に編入する線引き制度のこと。

注3 地域福祉館：地域住民の福祉の増進に寄与する施設で、簡易老人憩の家・福祉ルーム・児童ルームを設置している。

注4 校区公民館：小学校区を単位にして昭和48年に設置された公民館制度であり、小学校の敷地内に設置された社会教育施設である。

\*1 鹿児島大学建築学科

\*2 鹿児島大学 教授・工博

\*3 鹿児島大学 助教授・工博

Student, Dept. of Architecture, Kagoshima University

Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.

Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.